

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	高等教育推進センター(教務機構)
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編成原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 組織の編成原理を毎年、教育推進連絡会議で検証する。	→ 1. 教育推進連絡会議における検証の有無		B	A	A	A
2011年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度には、教育推進連絡会議、および、センター検討委員会において、組織面・人事面からセンターの問題点を洗い出し、規程の改正案が提案され、2011年11月4日の大学評議会において承認された。さらに、2013年度には、全学的な機構化改革が行われ、センター所管業務についての見直しが行われた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の機構化改革により、センターの所管業務の柱の1つであったICTに関する業務が、LUNAを除いて、情報環境機構に移管された。一方、2012年度途中より、大学IRコンソーシアム、大学間連携共同教育推進事業に関する業務が、学長室から移管され、IRに関する業務が新たな所管業務の柱となりつつある。 ただし、機構化に伴い、組織の編成原理を検証する場を改めて検討する必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か IRに関する業務は、現在、センターが所属する教務機構の範疇を超える業務も多く、学長室や企画室と連携する必要性が今後生じてくるものと考えられる。データ分析等により導出された施策を上程していく方法も含めて、指揮・命令システムを明確化していく必要があると考えている。	☆
		その他	☆
備考			☆